

JAMA NEWS

NO. 30

The Japanese Association of Management Accounting

日本管理会計学会 〒169-8050 東京都新宿区西早稲田1-6-1 早稲田大学商学部 日本管理会計学会事務局

2009年度全国大会記

早稲田大学大学院 潘健民

統一論題

「インタンジブルズと管理会計」

日本管理会計学会2009年度全国大会(大会準備委員会会長：安國一氏)が、2009年8月28日(金)～30日(日)の日程で、亜細亜大学を会場として開催された。大会参加者数は210人

<自由論題報告>

2日目と3日目の午前中には、自由論題報告が行われた。自由論題では、総勢29名からなる24組の報告が行われた。報告内容は、管理会計分野における重要なテーマである原価計算や原価企画から、財務会計や知的財産などの分野を管理会計に融合したものまで、多岐にわたる内容となっていた。研究手法もケース・スタディ、実証や分析モデルなど、多様な手法が用いられていた。また、24組の自由論題のうち、日本とニュージーランドの研究者と院生で構成される研究チームから2組の発表が行われ、それらは、日本管理会計学会が掲げた研究の国際化を象徴するものであった。

<特別講演>

2日目の午後には、平田正之氏(株式会社情報通信総合研究所 代表取締役社長)を迎え、「ICT産業の発展と今後の展望—情報通信サービスの社会的役割の拡大—」というテーマで、特別講演が行われた。

特別講演において平田氏は、NTTグループの収入構造に焦点を絞り、豊富な資料とデータを示され、ICT産業(Information and Communication Technology, 情報通信技術)の構造的な変革を説明された。

<基調講演および統一論題報告>

特別講演に続き、2日目の午後には、浅田孝幸氏(大阪大学)を座長として、「インタンジブルズと管理会計」というテーマのもとで基調講演と統一論題報告が行われた。

<基調講演>

基調講演では、「インタンジブルズと管理会計—レピュテーション・マネジメントを中心に—」というテーマで、櫻井通晴氏(城西国際大学)による基調講演が行われた。

櫻井氏はまず、「インタンジブルズがなぜ管理会計の研究対象として必要なのか」について説明された。

次に、「管理会計の立場からのインタンジブルズ研究の方向性」について、①知的なインタンジブルズと②レピュテーションに関連するインタンジブルズの2つの範疇に区分する考察を示された。また、超過収益力の会計学における扱いが、1980年代までの「のれん」から1990年代の「知的財産」を経て、21世紀には「インタンジブルズ」と変化してきたことが示された。

さらに、櫻井氏は、「レピュテーション・マネジメントの領域と方法」として、BSC+戦略マップ、内部統制、リスクマネジメント(全社的リスクマネジメント：ERP)、CSR、レピュテーション評価と順位づけ、およびレピュテーション監査をあげられた。

最後に、インタンジブルズ研究のキッカケや今後の研究について述べられ、報告を終了された。

<統一論題報告>

統一論題報告では、浅田孝幸(大阪大学)を座長として、「インタンジブルズと管理会計」というテーマのもとで、馬渡一浩氏(株式会社電通総研)、岩田弘尚氏

(専修大学) , および伊藤嘉博氏(早稲田大学)による報告が行なわれた。

第1報告は、馬渡一浩氏(式会社電通総研)による「ブランド・マネジメントーレピュテーション・マネジメントとの関係においてー」であった。

馬渡氏はまず、ブランドの定義として、①商品・サービスの識別化・差別化を意図したシンボルの体系であり、②顧客を中心に人々の間で共有される記憶のセットで、人々の認識を肯定し、関連性や行動をドライブする機能を持つものであり、③ブランドが記憶のセットとなるためには、様々なコミュニケーションが必要であるということを示唆された。

馬渡氏によると、戦略レベルでコミュニケーションに係わる役割はこれまでほぼブランドのみが担ってきたが、コミュニケーション環境の変化に伴い、「社会的な共通認識」であり「記憶セットが形成されていくときの経過的な集合知」としてのレピュテーション概念を新たに取り入れ、ブランドとあわせて、より包括的で戦略的な管理を進める必要があるという。

第2報告は、岩田弘尚氏(専修大学)による「コーポレート・レピュテーションの測定とマネジメント」であった。

岩田氏はまず、コーポレート・レピュテーションに関心が高まりつつある理由として、多発する企業不祥事を背景とするリスクマネジメントの重視、コーポレート・ガバナンスの変化、および純資産と株式時価総額の乖離の説明要因の3点からの説明をされた。次に、コーポレート・レピュテーションの意義について、様々な先行研究を示されたうえで、その定義として、上記の櫻井氏の定義「経営者および従業員による過去の行為の結果、および現在と将来の予測情報をもとに、企業をとりまくさまざまなステークホルダーから導かれる競争優位」を示された。

まとめとして、レピュテーション・マネジメントの2面性(①コーポレート・レピュテーションの測定と②レピュテーション・ドライバーの管理)、本格的な実証分析の必要性、BSCによるレピュテーション・ドライバーの管理、およびインタンジブルズ(管理会計情報)

の開示可能性の検討が示され、報告を終了された。

第3報告は、伊藤嘉博氏(早稲田大学)による「CSR活動の経済的価値ーマテリアルフローコスト会計革新の可能性ー」であった。

伊藤氏はまず、問題意識として、CSRが将来の企業価値と社会的価値を生む元になる広い意味での「資本」である一方で、個々のCSR活動と経済的成果(価値)との因果関係を明確に掴むことができないため、それはいわゆる「見えざる資本」であるところのインタンジブルの範疇に属すること、そのようなインタンジブルである以上、CSR活動の経済性評価が避けて通れない課題であることを示唆された。

また、システムコストの取り扱い方法、物量センサーが分割困難なマテリアルコストやエネルギーコストの算定の精密化といった「データ収集・分析にかかわる課題」、ならびに具体的な改善施策の識別にいかにつなげるかという「さらなるシステム拡張への模索」を示された。

<統一論題シンポジウム>

3日目の午後は、櫻井通晴氏(城西国際大学)をコメントータとして迎え、統一論題シンポジウムが行われた。櫻井氏は、2日目の報告者の役割について、平田正之氏(通信産業における無形の資産の増加・無形資産から企業価値)、櫻井通晴氏(インタンジブルズとレピュテーションの研究を鳥瞰・統一論題における3先生の報告の意味づけ)、馬渡一浩氏(ブランド・マネジメントの立場からするコーポレート・レピュテーション)、岩田弘尚氏(コーポレート・レピュテーションの深堀り・今後の実証研究の筋)、伊藤嘉博氏(CSRとマテリアルフローコスト会計・原価計算が関与して、多くの研究者はホットとする)の順で整理された。

さらに、詳細な資料とともに、各先生に対して、「ブランドの発展プロセス」、「ブランドやコーポレート・レピュテーションは知的資産か」、「知的資産とレピュテーションの区分」、「認知、イメージ、CR、BE、業績」、および「CSRと財務業績」に関するコメントを求められ、フロア参加者も交えての活発な討議が行なわれた。

学会賞決定!

特別賞、功績賞の審査委員会の審議の結果を受けて、2009年8月28日開催の常務理事会において、特別賞1名と功績賞2名が決定しました。2009年度総会の中で受賞式が行なわれ、辻正雄会長より賞状とたてが贈呈されました。おめでとうございます。

《特別賞》

西村明氏(別府大学)

《功績賞》

中根滋氏(UWiN(株))

倉重英樹氏

論文賞、文献賞および功績賞の審査委員会の審議の結果を受けて、2009年8月28日開催の常務理事会において、本年度の論文賞、奨励賞および文献賞が次の5氏に決まりました。2009年度会員総会の中で受賞式が行なわれ、辻正雄会長より賞状と金一封が贈呈されました。おめでとうございます。

《論文賞》

山本達司氏(名古屋大学)

「株式会社所有構造と利益マネジメント」『管理会計学』第17巻第2号, 2009年2月, 3~21ページ。

《文献賞》

荒井耕氏(一橋大学)

『病院原価計算－医療制度適応への経営改革』中央経済社, 2009年1月刊。

松尾貴巳氏(神戸大学)

『自治体の業績管理システム』中央経済社, 2009年3月刊。

《奨励賞》

潘健民氏(早稲田大学大学院)

“Japanese Firms’ Real Activities Earnings Management to 10 Avoid Losses “ (日本企業の実質活動による報告利益管理) 『管理会計学』第17巻第1号, 2009年2月, 3~24ページ。

丹生谷晋氏(筑波大学大学院)

「分権型組織における業績評価システムに関する実証研究」

『管理会計学』第17巻第1号, 2009年2月, 39~55ページ。

2010年度全国大会 早稲田大学に決まる!

2010年度全国大会が次のとおり決定いたしましたのでお知らせいたします。なお、詳細については追ってお知らせいたします。

- 日程: 9月3日(金)~9月5日(日)
- 場所: 早稲田大学早稲田キャンパス(東京都新宿区)
- 大会準備委員長: 佐藤紘光氏

会則，役員選任規定の改訂について

会長 辻正雄

亜細亜大学で開催されました2009年度年次全国大会の総会におきまして、常務理事会および理事会で承認されました会則、役員選任規程の改定が、原案通り承認されました。この度の改定の目的は、選挙により選出される理事および常務理事の所属あるいは出身の大学、地域および年齢などの点について選挙による偏りを改めるとともに、本学会の運営を円滑に進めることを可能ならしめることにあります。詳しくは改定された会則等をご覧いただきたいと存じますが、選挙によらない理事を増員し、選挙によらない常務理事の制度を新設することにより、800名に達する全国組織の学会に相応しい運営体制を保持し、本学会がさらなる発展を遂げられますことを願い、この度の合意が形成されたものと理解しております。

また、創設以来、実務家の方々にも参画いただいていた本学会の伝統が堅持されますように、増員された理事

および新設された常務理事に実務家枠が設けられました。さらに、本学会の運営を円滑に進められますように、特別賞あるいは功績賞を受賞された正会員である会員に顧問として常務理事会および理事会にご参加いただける制度も新設されました。創設20周年を2011年に迎える未だ若い本学会におきましても、世代交代が漸進的に進んでいくことが望まれます。会長の再選禁止を除いて役職者の選任に関する制限は設けられていませんでしたが、今回の改定により、理事、常務理事および監事の選任は連続して2期までと制限されることになりました。今回の改定は、2010年の年次全国大会において選出される理事から適用されます。会員の皆様におかれましては、このたびの改定をご承知おきいただき、学会活動に積極的にご参加いただきますようお願い申し上げます。

日本管理会計学会会則

(改正部分のみ掲載；下線部が改定箇所)

(役員)

第12条 本学会に、次の役員をおく。

- (1) 会長 1名
- (2) 副会長 4名以内
- (3) 常務理事 25名以内 (理事の兼任者を含む)
- (4) 理事 55名以内
- (5) 顧問 若干名
- (6) 監事 若干名
- (7) 参事 若干名
2. (削 除)

(役員職務)

第14条 会長は、本学会の会務を統括し、本学会を代表する。会長は総会、理事会および常務理事会を主宰する。

2. 副会長は、会長を補佐する。
会長に事故あるときは、副会長のうちの1名がその職務を代行する。
3. (削 除)
4. (削 除)
5. 常務理事は、常務理事会を構成し、本学会の常務を分掌処理する。
6. 理事は、理事会を構成し本学会の運営につき審議する。
7. 顧問は、本学会の運営にかかわる諮問に応じて

意見を述べる。

8. 監事は、役員の実務執行状況および会計・財務の状況を監査する。
9. 参事は、常務の処理につき常務理事を補佐する。

(役員任期)

第15条 役員任期は3年とする。ただし、会長については再選を認めず、理事については連続して2期を超えて選任されることを認めない。

2. 役員選任規程第8条により選任された理事については、連続して選任されることを認めない。
3. 役員任期は本学会の事業年度の初日をもって始まり、規定任期の年度末日をもって終了する。
4. 欠員補充または増員により選任された役員任期は残任期間とし、この期間は1期と数えないものとする。

(会議の種別および構成)

第16条 本学会の会議は、総会、理事会および常務理事会とし、その構成は次のとおりとする。

- (1) 総会は、正会員、準会員、賛助会員、名誉会員および特別会員をもって構成する。
- (2) 理事会は、会長、副会長、常務理事および理事をもって構成する。
- (3) 常務理事会は、会長、副会長および常務理事をもって構成する。
- (4) 顧問、監事および参事は、理事会および常務理

事会に出席することができる。

(事業年度)

第 29 条 本学会の事業年度は、毎年4月1日に始まり翌年3月31日に終わる。

付 則

1. 1992年10月3日，制定。
2. 1997年9月5日改正，1998年4月1日施行。
3. 2000年9月15日改正，2001年4月1日施行。
4. 2001年10月28日改正，2001年10月28日施行。

日本管理会計学会役員選任規定

(改正部分のみ掲載；下線部が改定箇所)

(常務理事の選任)

第 5 条 常務理事は、第8条および第9条の定めによる場合を除き、理事の互選により選任する。

(理事の選任方法と定数)

第 6 条 理事の選任方法と定数は、次のとおりとする。

- (1) 会員の直接投票により選任される理事 40名
- (2) 総会の承認により選任される理事 5名以内
- (3) 理事会の議決により選任される理事 10名以内

(総会の承認による理事および常務理事)

第 8 条 常務理事会は、次期の理事となり、かつ次期の常務理事となる候補者として会長および副会長を、総会に推薦する。

2. 前項により推薦された候補者は、総会の承認により理事、かつ常務理事に選任されるものとする。
3. (削除)

(理事会の議決による理事および常務理事)

第 9 条 本学会の運営を円滑にするために必要と認められる場合には、理事会の議決により以下の理事および常務理事を選任することができる。

- (1) 10名以内の理事（正会員および賛助会員の中から、大学、短期大学、専門学校等の研究教育機関において管理会計学および関連分野の研究教育に従事する者7名以内、ならびに公認会計士、税理士等の職業専門家、および企業等において経営管理実務の経験を有する者3名以内）
- (2) 5名以内の常務理事（理事の中から、大学、短期大学、専門学校等の研究教育機関において管理会計学および関連分野の研究教育に従事する者3名以内、ならびに公認会計士、税理士等の職業専門家、および企業等において経営管理実務の経験を有する者2名以内）

(顧問の選任)

5. 2006年9月2日改正，2008年4月1日施行。
6. 2009年8月29日改正，2011年4月1日施行。なお、第15条第1項のうち理事の選任に関する期間の算定にあたっては、2011年3月31日以前に理事であった期間を含めない。
7. 本学会の本部事務局は、会長あるいは副会長が所属する機関内に置く。
8. 会費の年額は、次のとおりとする。

正会員	会費8千円
準会員	会費3千円
賛助会員	会費1口1万円（1口以上）

第 10 条 顧問は、正会員である特別賞または功績賞の受賞者の中から、常務理事会で選任する。

2. (削除)

(監事の選任)

第 11 条 監事は、常務理事会および総会出席者の推薦にもとづき、総会の承認により選任する。ただし、2期を超えて選任することを認めない。

(参事の選任)

第 12 条 参事は常務理事会で選任する。ただし、原則として、2期を超えて選任することを認めない。

(役員人事に関する理事会)

第 13 条 第3条，第7条および第8条の定めにより新たに選任された会長と理事から構成される会議は、任期開始日以前にあっても第4条，第5条および第9条の定めによる役員を選任について審議することができる。

2. 前項の定めによる役員を選任は、理事会による選任とみなす。
3. (削除)
4. (削除)

(選挙の実施)

第 14 条 役員選挙は年次全国大会開催期間中に実施する。

2. 選出された者の氏名は、年次全国大会期間中に会場で発表するとともに、選出された者にはすみやかに文書で通知する。

付 則

1. この規程は1997年9月4日制定，1998年4月1日より施行する。
2. 2001年10月27日改正，2001年10月28日施行。
3. 2009年8月28日改正，2011年4月1日施行。
4. 本規程の改廃は常務理事会で審議し、理事会および総会に報告する。

学会業務日誌

2009年4月11日(土)

▼2009年度第1回常務理事会開催(早稲田大学)

▼2009年度第1回理事会開催(早稲田大学)

- ◆ 崎章浩氏(明治大学)を会計担当副会長として選出することが承認されました。
- ◆ 2009年度事業計画案などが審議されました。
- ◆ 会則、役員選任規程および役員選挙実施内規の改正について審議されました。

2009年7月4日(土)

▼第2回常務理事会開催(九州大学)

- ◆ 2008年度収支決算案および2009年度収支予算案が審議されました。
- ◆ 会則、役員選任規程および役員選挙実施内規の改正について審議されました。

2009年8月28日(金)

▼2009年度第3回常務理事会開催(亜細亜大学)

▼2009年度第2回理事会開催(亜細亜大学)

- ◆ 学会賞受賞者について審議されました。
- ◆ 会則、役員選任規程および役員選挙実施内規の改正について審議されました。

2009年11月28日(土)

▼2009年度第4回常務理事会開催(愛知東邦大学)

- ◆ 学会賞規程の改正について審議されました。
- ◆ 学会創設20周年記念事業について審議されました。
- ◆ 2009年11月28日現在、正会員は690名、準会員は90名、賛助会員は3社、合計会員数は783会員であることが報告されました。

新入会員の紹介

- 正会員(敬称略)
20名入会
- 準会員(敬称略)
11名入会

2009年11月28日現在

日本管理会計学会広報 責任者 : 溝口周二

メンバー : 伊藤和憲 河合久 成田博 櫻井康弘

発行機関 : 日本管理会計学会

《本部事務局》 〒169-8050 東京都新宿区西早稲田1-6-1 早稲田大学商学部 日本管理会計学会事務局

E-mail : jama-info@list.waseda.jp

《学会公式ホームページ》

<http://www.sitejama.org/>